



〒915-0823
 福井県越前市本町10-2
 親縁山 大寶寺
 TEL/FAX (0778) 22-1682

**平成十九年度大寶寺
 総墓参りのご案内**

8月10日

ようやく梅雨の長雨も明けようという今日このごろ、みなさまにはご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、例年のごとく8月10日(水)に総墓参りの法要を勤めますのでご案内いたします。総墓参りとは大寶寺のすべての檀信徒のご先祖のご回向をするお参りです。本堂においてはお施餓鬼のお勤めが営まれます。ご供養をご希望の方は別紙の申し込み用紙にご記入の上、ご供養料を添えてお申し込み下さい。

また、水吹き地藏尊横の大寶寺のご先祖の納骨墓である総墓にもお参り下さい。総墓にお参り頂く際には、北側にあり回向院にて、水塔婆をお求め頂き、お花とお線香を添えてお供え下さい。

施餓鬼供養のご案内 一席 20,000 円

お施餓鬼は大変功德のある先祖供養です。新亡、年回のご先祖など、ご供養を承ります。当日、帳場で申し込んで頂くこともできますが、準備の都合がありますので、できるだけ、別紙の申し込み用紙にて、あらかじめ寺にお申し込み下さい。

ご回向の際には、お菓子などをお供え頂きますようお願い致します。(お供物は、ご供養の後で、参詣者に配るのが習わしです。)

また、一席にて複数の霊位のご供養をしていただくことも可能です。



本堂に設えた施餓鬼壇

お施餓鬼とは

お施餓鬼の元になったのは仏説救拔焰口餓鬼陀羅尼經くぼつえんくがきだらにきょうという教典です。その中身をかいつまんで説明すると...

あるとき阿難尊者が瞑想をしていると、口から火を吐く恐ろしい餓鬼が現れ「お前は3日後に死んで、我々と同じ恐ろしい餓鬼道に落ちる。」と言いました。恐れをなした阿難尊者に餓鬼は「三宝、すなわち仏・法・僧、ならびに、無数にいる餓鬼に食物を施して供養すれば、その功德により、自分自身もまた布施を受けた餓鬼も救われる」と伝え、姿を消しました。

お施餓鬼は真宗を除く各宗派でお盆の時期に行われる法要で、野菜、果物やお菓子などの食べ物を餓鬼に施すことを通して、先祖を始めとし、有縁・無縁の諸精霊、また施主自身にもたいへん功德のある法要とされています。

旧盆棚経のご案内

8月11日から16日

旧盆の棚経を、昨年と同様に8月11日から16日にかけて廻ります。住職もしくは若がおうかがいたしますので、ご準備ください。

なお、該当のお宅には、別紙にておおよその訪問時間をお知らせします。なにごぶん、広範囲にわたり軒数も多いので、十分にご希望に添えないこともあります。が、ご都合が悪い場合には寺までお知らせ下さい。

【旧盆棚経巡回予定】8月11日 湯尾、8月12日 奥谷 8月13日 燧、南条、武生周辺 地区、鯖江、森行、浅水 8月14日 栗田部、中居、五分市、北村、国高、村国、八幡 8月15日 五郎丸、上鯖江 8月16日 櫻津

なお、8月16日、17日の午後には、それぞれ具谷の法林寺、および湯尾の浄土寺にて施餓鬼会法要が営まれる予定です。

水塔婆のご案内 一霊 300 円

8月10日の総墓参りでは、水吹き地藏の北側にある総墓に水塔婆をあげて、ご先祖のご供養を致します。水塔婆は境内の北側にある山門の横の回向院にてお求めいただけます。

塔婆の形は上から地・水・火・風・空という仏教の世界観を表しています。



先祖代々追善菩提



水吹き地藏の北側の総墓には、水塔婆、お花、お線香が供えられます

平成十八年

墓参り御案内

八月十日(木)

○お施餓鬼法要 本堂にて

午前九時半頃から

○昼食 庫裏にて

正午〜一時頃まで

○お施餓鬼法要 本堂にて

午後一時〜

山門(北側の門)横の回向院にて水塔婆の供養を受け付けています。

トピックス

第18回 浄土宗福井教区

檀信徒研修会 7月1日(日)



例年実施されている県内の浄土宗の檀信徒の皆さまに、お念仏の信仰を深めて頂くための研修会が、今年は芦原温泉の「グランディア芳泉」にて開催されました。一日目は、はぐるま太鼓を率いて

青少年の更正につくしている坂岡加代子さんにお話を聞いたあと、太鼓の演奏を楽しみました。その後、参議院議員の小泉顕雄上人の法話を頂きました。

二日目は知恩院布教師会会長の久米慶勝上人のご法話を頂いた後、県児童教化連盟のメンバーのパネルシアターを楽しみました。

また、一日目の夜は懇親会が開かれ檀信徒の親睦を深めました。大寶寺から住職を含め10名が参加しました。

新命住職認証報告式

7月4日(水)



平成18年度中に住職になった全国の僧侶を対象とした住職認証奉告式が、7月4日午後一時三十分から総本山知恩院にて、執り行われました。



総本山知恩院の御影堂の前で坪井俊映猊下とともに、全国各地から集まった新住職と総代さんとともに記念写真を撮りました。

県浄土宗仏教青年会主催

別時念仏会 7月12日

平成18年度は全国で143名の新任住職が誕生しましたが、その内44名が参加して、御影堂で法要があつたあと、古経堂および月光殿にて講演がありました。大寶寺からは住職と総代の藤井洋造さんと勝見和雄さんが出席しました。

福井県仏教青年会主催の別時念仏会が7月12日、午後7時から大寶寺の本堂にて執り行われました。まず、

ろうそくの炎に浮かび上がるご本尊の前で礼拝をし、



お念仏を唱えました。その後、正覚寺の塔頭の常照院のご住職、森中高信上人の紙芝居などを用いたおもしろくてためになる法話を頂きました。お講さんを中心に二十名ほどの参加がありました。

新盆墓参りおよび棚経

7月13日から15日



お墓参りのあと、本堂にて老僧とお茶を飲んで談笑する参詣者のご婦人方。

7月13日、大寶寺の墓地にてご先祖をお迎えする新盆のお墓参りがありました。今にも雨が降りそうな梅雨空のもと例年より早めにお墓参りをすませる人が多く見られました。14日にはあいにくの雨天に見舞われましたが、住職と若とで主に武生地区のお宅の棚経に廻りました。15日には心配された台風も太平洋の方にそれて、まずまずのお天気に恵まれ主に福井、鯖江地区のお檀家のお宅を廻りました。

濁中蓮華

濁った世間に咲く蓮の花の意

弥陀三尊の心 その2



大寶寺の弥陀三尊仏。手前が慈悲すなわち感性を表す観音菩薩さま。中央が光りと命の仏である阿弥陀如来。その向こうが知恵の仏、すなわち、理性を表す勢至菩薩さま。

柳沢厚生労働相は、「女性一人あたりの出生数が増えなければ人口は増えない」と、いうことを述べるのに、あえて女性を「生む機械」に例えてひんしゆくを買った。

久間防衛相は「戦争の終結を早め、ソ連の日本占領を防いだのだから、原爆の投下はしようがない」と思っている」と述べて、国民の怒りを招いた。両者の発言に共通するのは人間に対する思いやりのなさと言えよう。とはいえ、感性と理性の狭間で迷うのが人間の常だ。そのことを思えば、柳沢、久間の両氏を単純に批判することはできない。

仏教は中道を説く。中道とは真んなか辺りのほどほど、という意味ではない。極端に偏ることに對する戒めである。柳沢、久間の両氏の発言は理に偏りすぎて、情に欠けている点の問題なのだ。

しかしながら、理と情の釣り合いをとることは決して容易ではない。だからこそ、阿弥陀さまにすがれと仏教は説き、そのことが弥陀三尊仏の姿に現れているのではないか。愚者の自覚をもつて唱える念仏は、人間に謙虚であることを教えてくれる。柳沢、久間の両氏の発言に欠けていたのは、そのような謙虚さではないか。